

## 活動状況報告書（3月分）

スポーツコース 佐藤 弘也

1月15日から始まっている Neuphysio Rehabilitation での研修は今月も継続している。車いすカーリングカナダ代表理学療法士の Sari 氏、Alysia 氏は現地韓国に帯同しているためフォローアップしているセラピストを中心に見学についた。いつもの臨床に加えて、カナダ国内の装具や道具も日本とは少し異なるものも使用しており勉強になった。

3月1日から韓国で世界選手権が開催された。日本はミックス(4人制)には参加することができず、ミックスダブルス(2人制)のみの参加だった。カナダ代表を中心に YouTube による配信をチェックした(写真1)。昨年私が参加した世界選手権よりも各国のレベルが上がっているし、そこに近づけるようにしなければならないと感じた。さらに予選に関しては一時6チームが同率に並ぶこともあり、各国ともに様々な試みをしていると感じた。結果、カナダ代表はミックスで銀メダル、ミックスダブルスは予選敗退という結果であった。日本はミックスダブルスで4位という結果であり、素晴らしい結果であった。世界選手権に帯同前の理学療法士としての準備や帰国後の大会の様子や理学療法士としての現地での活動についても理解を深めることができた。

3月23日から30日までカナダ選手権の観戦を行った。各州から全11チームがサスカチュワン州にあるムースジョーという町に集結して行われた。試合を見るのにはチケットが必要だが選手、スタッフはもちろんであるが、地元の観客も多く予選で1試合100名以上、決勝戦は地元チームが2連覇をかけた試合であったのもあるがおそらく300人以上の観客がいてカーリングに競技の盛り上がりや周囲の関心の高さ、文化の違いを感じた。選手の年齢層は平均的に高い印象であり、長く続けられる競技であるとともに選手発掘・育成には時間がかかる印象であった。ナショナルプログラムの選手も州代表として参加されており、やはり活躍が目立った。この大会もちょうど20周年のようで歴史と変化を感じつつ今後の日本における課題も見え、州代表の選手やスタッフ、観客と話をする機会もありとても充実した時間を過ごすことができた(写真2-5)。

時間の経つのは早く残り約2ヶ月となった。引き続きより多くのことを学びたいと考える。

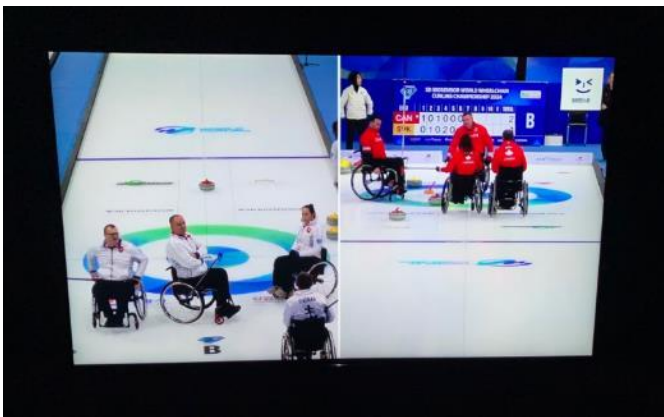


写真1：車いすカーリング世界選手権の様子(YouTubeでのLive配信)。



写真 2 : 車いすカーリングカナダ選手権の看板の前



写真 3 : カナダ選手権の試合の様子



写真 4 : カナダ選手権決勝戦のギャラリーの様子



写真 5 : カナダ選手権優勝チームと記念撮影